

## 第5回「第2期県立高校将来構想検討協議会」の協議の概要について

### 1 開催日

平成26年11月18日（火）

### 2 協議の概要

「第2期県立高校将来構想（素案）」について

- (1) 「第1章 第2期県立高校将来構想の策定について」及び「第2章 高校教育を巡る現状と課題」の協議における主な意見
  - 難しい語句には、注釈をつけて説明するとよい。
  - 「知識・技能」と「知識・技術」など、似たような語句については、使い分けするのか統一するのかを精査することが必要である。
- (2) 「第3章 今後の県立高校の在り方について」の協議における主な意見
  - 「教職員の資質能力の向上」の項目の中に、「人事異動の活性化」という内容を、また、「グローバル人材の育成」の項目の中に、「世界スカウトジャンボリーの体験を生かし県内大学の留学生の活用」という内容を記載すべきである。
  - 「ICT機器の活用による協働型・双方向型の授業の導入」という記載があるが、ICT機器の活用と協働型・双方向型の授業が結びつかない。
- (3) 「第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について」及び「第5章 将来構想の推進について」の協議における主な意見
  - 特色ある学校づくりを進めるにあたって、「各高校の歴史や伝統を引き継ぐ」という趣旨を盛り込んでほしい。
  - 実験・実習設備等の計画的整備については、工業に関する学科だけでなく、すべての専門学科で必要であると考える。
  - 「定時制・通信制課程の方向性」の項目の中に、「多様な学びのニーズの受け皿」という記載があるが、「受け皿」という表現はイメージが悪い。
- (4) 全体を通じて
  - これまでの検討協議会における意見も盛り込まれており、全体的によく練られている。
  - 「再編整備をして学校規模を拡大する」という記載が随所にあるが、高校教育の質の向上という観点から、望ましい学校規模を4～8学級としているので、「再編整備により望ましい学校規模を確保する」という表現にすべきである。